

教科等研究会（小・中学校特別支援教育部会）

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

子どもの姿から出発する「分かる・できる」「楽しい」授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

2 研究経過（今年度は第4回研修会は中止）

部会名	第1回			第2回			第3回		
Ⅰ：知的障がい	6/7	37名	嘉島東小	8/4	嘉島東小	講話 構想案検討 実践紹介	12/7	嘉島東小	講話 事例検討 実践紹介
Ⅱ：自閉症・ 情緒障がい	6/7	44名	飯野小	8/4	飯野小	講話 (リモート)	11/25	飯野小	構想案検討 実践紹介
Ⅲ：肢体不自由・ 難聴・病弱・弱視	6/7	24名	嘉島東小	8/23	益城中	事例検討 *中止	12/3	益城中	事例検討 (リモート)

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- Ⅰ部会：第2回研修会では、松橋西支援学校高等部上益城分教室の村崎麻紀子教諭に、自立活動や進路指導についての講話をいただいた。第3回の研修では、松橋東支援学校の小川俊郎教諭に、教科指導についての講話と、事例検討会での助言をいただいた。
- Ⅱ部会：本部会では、子どもたちの実態をどのように捉え、そこからどのように『分かる・できる』『楽しい』授業をつくり上げていくかという視点をもって研究を進めた。第2回研修会では、松橋支援学校の井上礼治指導教諭に、教育的配慮が必要な児童生徒へのかかわりについての講話をしていただいた。
- Ⅲ部会：第3回研修会では、新型コロナウイルス感染症防止対策として、各学校からのリモートでの研修会を実施した。障がい種別に3班に分け、それぞれに支援学校の先生方をお招きし、専門的な助言をいただいた。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・ 講師や助言者の先生方から、支援学校の現状の紹介や、教科指導や自立活動の具体的な実践事例を豊富な資料と実際の教材教具を交えて説明していただくことで、児童生徒の実態とニーズをもとに、つけたい力を考えた上で、授業のあり方や支援方法についてのイメージを具体的にもちながら学ぶことができた。また、当事者の事例から、指導者のかかわり方がいかに重要であるかを学ぶことができた。
- ・ 班別交流を通して、少人数で具体的な実践例を出し合うことにより、様々な支援について学び合うことができた。
- ・ 授業研究会は中止になったが、担当地区の先生方を中心に構想案検討会や事前研究会を運営していただき、研修を深めることができた。
- ・ 今年度は2学期に実施する研修会の開催期日を、3部会それぞれが異なる期日の開催になるように調整したことで、昨年度よりも研修会に出席する会員が増加した。

② 課題

- ・ 授業研究会の実施ができなかったため、来年度は2学期中に授業研究会を実施したい。
- ・ 3部会に分かれてもそれぞれの会員数は多く、今後は会場を分散してリモートで実施する等、開催方法について検討していきたい。

4 実践事例

(1) 知的障がい部会

今年度は第4回研修会で授業研究会を実施する計画を立て、第2回研修会で学習構想案の検討

を行った。第4回研修会は中止となったため、学習構想案の最終案を以下に掲載している。なお、授業を受けた児童は少人数で個人が特定されやすいため、実施校及び授業者、児童の実態は掲載を控える。

【小学校国語科学習構想案 本時の学習】

① 本時の目標

読む：平仮名や片仮名を正確に読むことができ、文章を飛ばさずに読むことができる。

書く：1、2年生の内容の漢字の読み書きを定着することができる。

聞く：教師の話や友だちの発表を最後まで聞くことができる。

② 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10分	1 始めのあいさつ 2 学習内容の確認 3 ソーシャルスキルトレーニング (プリントA) (特別支援の SST 初級) 「ごめんね で なか直りをしよう」	○学習の始まりを意識できるようにする。 ○見通しをもち、学習に取り組めるようにする。 ○「話す」「聞く」「書く」などすべきことを分かりながら取り組めるように、言葉掛け等を行う。
		【聞く力】 A児：友だちの話最後まで静かに聞くことができる。 B児：先生の話をしっかり聞き、学習することができる。	
展開	30分	4 読んで考える学習 (プリントB) どうぶつのおはなし 「サルのおしゃべり」 ・二人で交互に読む ・1問問題を解く	○正しく読めるように声掛けや手本を示すようにする。 ○答えになる箇所や問題文と同じ言葉など見つけたら線を引くように声を掛ける。
		【読む力】 A児：ゆっくり読むことを意識して音読することができる。 B児：「誰が」「どこで」など問われていることを考えて解くことができる。	
		5 書く学習 ① 漢字 (三年生の漢字「宮」) (プリントC) ・漢字九九、書き順確認 ・書く練習 ・使い方を考える ・読み書き練習 ② (時間があれば) 言葉と文法「カタカナの言葉③」 (プリントD) ・問題を解く ・丸付け ・ファイルに綴じる	○声に出して読んだり手を動かしたりすることで、より定着できるようにする。 ○イラストや台詞を参考に、どのような場面で使われるのかを理解できるようにする。 ○片仮名の言葉について確認してからプリントに取り組めるようにする。 ○丸付けは、声にだして読みながら取り組むようにすることでより定着できるようにする。
【書く力】 A児：正しい書き順を意識して漢字を書くことができる。(口、日など) B児：前後の言葉を考え、正しい漢字の読み方を書くことができる。 (例：きょうは、水ようびです。 すい？みず?)			
		各学習が終わる→花丸カードを貼ってから、次の活動に進む。 →振り返りや称賛をして、次の目標や頑張ることを話す。	
終末	5分	6 終わりのあいさつ (個別)	○個別で終わることで、最後まで児童のペースで取り組めるようにする。
		7 タブレット学習 漢字の学習「わっしょい漢字」	○児童が一人で取り組めるようなアプリケーションを使用する。必要に応じてヒントなどを出すようにする。

指導上の留意点 ・児童一人一人のペースに合わせて学習を行う。
・児童の名前を呼んで具体的に指示等を出す。

(2) 自閉症・情緒障がい部会

【御船小学校 高木 拓 教諭の自立活動の実践】

以下は学習構想案から一部抜粋して掲載している。

- 1 単元名 「こんな時どうする？」
- 2 指導する自立活動の区分 ③人間関係の形成、④環境の把握、⑥コミュニケーション
- 3 単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)

日常生活の中でも同じような場面があることに気づき、生活の中でその場に応じた行動ができる児童。

4 本時の学習 (2/4時間)

① 本時の目標

- ・自分の物が見つからない時、誰かにとられたと思い込まずに探すことができる。
- ・うまく見つけられない時は、周りの人に聞いたり手伝ってもらったりしながら、手順を踏んで探し出すことができる。

② 展開

時間	学習活動	T: 主な発問・指示 C: 予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
5	1 本時の学習課題を確認する。 めあて 自分の物が見つからない時の行動を考えよう。	T: 今日もいろんな場面についてどのような行動をしたらいいか考えていきたいと思います。	○落ちついた気持ちで学習の流れを聞けるように、静かになってから説明する。 ○学習の流れを伝え、見通しをもち安心して学習できるようにする。	学習の流れ図 視覚化
5	2 動画を見る。	動画を見終わった後 T: もし友達から「取っただろ」と言われたらあなたはどんな気持ちになりますか。 C: ムカついてくる。	○気持ちを表情カードで示し理解を促す。 ○自分と相手の立場を置き換えながら考えることができるように、事前に動画を撮って見て考えることができるようにする。	場面カード 表情カード
10	3 ワークシートに○△×で行動を評価する。 ○: 良いと思う行動 △: どちらでもないと思う行動 ×: 良くないと思う行動	T: 自分の物が見つからない時は、どうしたらいいと思いますか。 T: ×を選んだ理由を教えてください。	○書く負担を軽減するため、記号で回答する形式のワークシートを作成する。 ワークシートの工夫	動画
5	4 こんな時どうする？	T: そうだね。みんなならこんな時どうする？それでは話し合ってみよう。	○話し合う際に、何をしたらいいか分からない子には、T2に入ってもらおう。	ワークシート
15	5 四コマ漫画を作る。	T: それでは、グループで話し合ったことについて、四コマ漫画を作ってもらいたいと思います。	○望ましい対応を言語化して掲示する。 ○最初の場面は1コマに使い、残りの場面を考えてもらう。 ゲーム性	四コマ漫画のプリント
5	6 振り返り 【知識・理解・技能】 (発言・ワークシート) B: 四コマ漫画の時に望ましい対応をすることができる。 Bに達しない場合の評価: 日常生活場面を思い出して、友達と一緒に考えることができる。	T: みんなで「こんな時どうする？」を考えることができましたか。次は他の場面を考えていきたいと思っています。	○みふねの振り返り(「み」友達の良いところを見つけた、「ふ」ふーんと思ったこと、「ね」ネクスト頑張りたいこと)を活用しながら振り返りを行う。	「みふね」の振り返り

高木先生は、日常で起こる様々な事象に対し、どのような対応をしたらよいのか分からずトラブルになったり感情的に行動してしまったりする児童の実態に対して、昨年度から実践を重ねておられる。考える場面については、子どもたちが理解しやすいように先生方で動画を作成されており、それを児童が視聴し、望ましい行動や言葉遣いについて考えていく授業授業づくりをされておられる。

○授業者自評

- ・学習の流れを視覚化したり、動画や表情カードを工夫したりすることで、児童の学習に対する意欲を高めることができた。
- ・時間配分がうまくいかなかった。4コマ漫画を描く作業に時間が取られすぎた。絵にこだわりすぎる児童がいたり、台詞が出てこなかったりする児童がいたりした。
- ・事例によっては、どちらに視点を置けばよいのか分からない児童がいたので、視点を明確にする必要があった。

(3) 肢体不自由・難聴・病弱・弱視部会

【益城中学校 内田 晴龍 教諭の第3学年保健体育科における水泳の授業の実践】

① 医療支援員からの支援を受け、水着に着替え、スロープを使ってプールまでの移動ができた。



② 生活支援員（特別支援学級担任）の支援を受け、プールに入水し、水慣れができた。



③ 救命胴衣を装着し、自力で泳ぐことができた。



④ 救命胴衣を未装着のまま、生活支援員の支援を受け、自分の泳法で泳ぐことができた。



まとめ

中学1、2年生時の水泳の授業では、プールへの移動時間（校内を車で送迎）や入水までの支援が十分にできず、授業に参加することが困難であったことを前任者から引き継いでいた。今年度はスロープを使って短時間でプールへの移動も可能になり、入水時間も確保することができた。

交流学級の生徒と一緒にプールの中で授業を受けたことや、救命胴衣を装着して自分に適した泳法で泳ぐ経験ができたことは本人の自信にもなった。高校進学後も、できる限り水泳の授業に参加することで、自信をつけてほしい。